

トルコ 紅海危機にも拘わらずリンゴ輸出は継続 次はサクランボ

[FreshPlaza 2024年3月13日](#)

「我々は、困難な状況にもかかわらず、紅海危機を生き延びている」

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、紅海危機により、トルコ産リンゴのインド向け輸出が様変わりしたと言う。(以下「」は同氏の発言)

「インド向けのリンゴ輸出に関してはすべてが変わった。紅海危機以来、輸送時間が長くなり、運賃が上昇し、多くの遅延が発生した。しかし、これらすべての課題にもかかわらず、我々はまだ生き残っている。これまでに350コンテナのリンゴをインドに出荷した。ここまでは順調だったと言える。輸送時間は確かに長くなったが、我々のリンゴの品質は、これらの長い輸送時間に確実に耐えられる。我々の果実の品質に大変満足しており、インドへの輸出を継続することができる。」

困難にもかかわらず、ケリム氏は今の時点でもまだ様々な市場にリンゴを輸出している。「現在、中東やアジアの国々にリンゴを出荷しており、ロシアにも出荷している。トルコ産リンゴの価格は、昨シーズンに比べて約10~15%高い。運賃が高騰したことも含め、紅海危機は価格に大きな影響を与えている。」

リンゴの出荷シーズンが終わりに近づく中、同社は別の果実に力を入れるとケリム氏は説明する。「来シーズンのリンゴの前のサクランボの出荷に備えている。これからのシーズンのサクランボについては、非常に良い契約を結んでいる。うまく行ったリンゴのオペレーションを、サクランボにも引き継ぎたいと思う。サクランボの輸出先は主にヨーロッパとアジアの国々であり、出荷シーズンの開始を楽しみにしている。」

今の状況が事前にわかっていたら、どんな違うことをしたかったかを尋ねると、ケリム氏は、自社のコンテナ船で、もっと早くにもっと多くのリンゴをインドに運ぼうとしたらどうかと答えた。「我々は船主でもある。デミル海運は我々の別会社であり、自前の貨物船を保有している。ただし、それらはすべてばら積み船である。トルコの国旗を掲げたコンテナ船を1隻保有し、弊社やトルコの他のリンゴ輸出業者のインド向けコンテナを運べたらよかったと思う。」

執筆者: ニック・ピーターズ

中国 柑橘類産業は堅調な成長

[FreshPlaza 2024年3月13日](#)

中国の農業部門における最近の発展の中で、同国の柑橘類産業は大幅な拡大を経験し、農業の近代化と構造の最適化において顕著な成果を示している。

最新の統計によると、中国は現在、240万ヘクタール超の柑橘類栽培面積を誇り、世界最大の柑橘類生産国として位置付けられる。同国の年間生産量は4,753万トンという驚異的な数量に達しており、この産業の堅調な成長と世界の柑橘類市場における極めて重要な役割を顕示している。

さらに、中国の柑橘類の輸出は目覚ましく増加し、輸出量は200万トンを超え、柑橘類の国際貿易における重要な担い手としての地位を確固たるものにしていく。この輸出の急増は、品質と規格の向上に向けた業界の協調的な取り組みが、世界市場での中国産柑橘類の競争力を大幅に向上させたことによるものである。

全体として、中国の柑橘類産業は、持続可能な農法と市場の拡大に重点を置き、継続的な成長を遂げる態勢が整っている。この業界のサクセスストーリーは、より広い意味での中国の農業近代化の成果と、世界の農業情勢において主導的な役割を果たすという中国のコミットメントを反映している。

出典: [XINHUANET](#) (新華網)